



2024年は、能登半島大地震で始まるという波乱の幕開けとなりました。被災されたみなさまに心からお見舞いを申し上げます。被災者のいのちと健康を守る活動に出来る限りの協力をしていかなければなりません。そして今年2024年を働くもののいのちと健康を守る運動が大きく前進する年にしていきたいものです。

今年2024年もよろしくお願いたします！！ 今号は、「①年末・年始からの働くもののいのちと健康をめぐる情勢のザッピング、②編集子の独り言、③今月のお勧めの本」です。

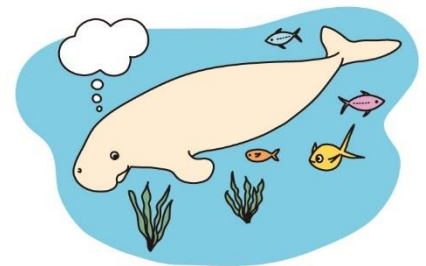
I 年末・年始からの働くもののいのちと健康をめぐる情勢のザッピング

1 能登半島地震

1月1日の元日に発生した能登半島地震は、最大震度7でマグニチュード7.6の大地震が、過疎化・高齢化し、耐震化が遅れた地域を襲い、壊滅的な被害をもたらしました。地震から3週間経った1月21日現在の石川県内の被害状況は、死亡確認232人、安否不明者22人、重軽傷者1,170人、住宅被害3万4,446棟、避難所避難者1万5,656人に及んでいます。岸田首相や馳石川県知事が現地を訪問したのが2週間後の14日だったことに象徴されるように、初期対応の遅れが深刻な事態につながりました。不要の声が高まっている大阪万博を中止して、能登の復旧・復興に全力を挙げてとりくむことが求められているのではないのでしょうか！

2 沖縄県名護市辺野古米軍新基地建設問題

辺野古の米軍新基地建設問題で、12月20日、福岡高裁那覇支部は、国の請求どおりに、知事に軟弱地盤の改良工事に伴う設計変更の承認を命じる判決を言い渡し、それを受けて、12月28日、斉藤国交相は「代執行」を強行し、1月10日、広大な軟弱地盤を抱える大浦湾側の埋め立て工事に着手しました。地方自治法にもとづく代執行は全国初のことであり、憲法で保障された地方自治を根本から踏みにじる恐るべき暴挙と言わざるを得ません。



3 2024年度政府予算案、診療・介護報酬と年金額の改定

12月22日、岸田内閣は、[2024年度政府予算案と税制改正大綱案](#)を閣議決定しました。軍事費が8兆円近く過去最大を更新する一方で社会保障は自然増を1400億円削減するなど、大軍拡最優先・大企業優遇で、国民生活犠牲の予算案と言えます。

2024年度からの診療報酬は、薬価の1%引き下げ、「本体部分」の0.88%アップで、全体としては0.12%の引き下げに、介護報酬は、1.59%（他に処遇改善加算の一本化に伴う利用促進などで0.45%相当を見込む）、障害福祉サービス報酬は、1.12%の微増にとどまりました。

2024年度の公的年金額については、マクロ経済スライドを発動して、物価上昇率を0.5%下回る2.7%増で、実質減となります（国民年金の満額が6万8千円、厚生年金の夫婦2人のモデル世帯で23万483円に）。



4 殺傷兵器の輸出解禁

12月22日、岸田内閣は、武器輸出のルールを定めた「[防衛装備移転三原則](#)」と運用指針を改定し、殺傷能力のある武器の完成品の輸出を可能にし、合わせて地対空ミサイル「パトリオット」のアメリカへの輸出を承認しました。憲法の平和主義に背を向け、「死の商人国家」へ大きく足を踏み出そうというものであり、絶対に許すことはできません！

5 政治資金パーティー裏金問題

1月19日、東京地検特捜部は、自民党派閥の政治資金パーティーの裏金問題で、政治資金規正法違反（虚偽記載）で、安倍派、二階派、岸田派の会計責任者を起訴しましたが、政治家の立件は見送りました。裏金作りは政治家の判断・関与なしにはできないことは明らかであり、真相の徹底究明と根本的な解決策である企業・団体献金の廃止が求められています。

6 2023年の消費者物価など

1月19日、総務省は、2023年平均の消費者物価指数が、生鮮食品を除く総合指数で前年比3.1%上昇したと発表しました。第2次オイルショックの影響が残っていた1982年の3.1%上昇以来41年振りの高い伸びとなりました。これで2年連続の上昇となり、2022年の2.3%上昇を上回りました。生鮮食品を除く食料品が8.2%、洗濯用洗剤などの家具・家事用品は7.9%上昇しました。1月10日、厚労省が発表した2023年11月の毎勤統計（速報値）によれば、実質賃金が前年同月比3.0%減となり、これで20カ月連続で前年を下回りました。また1月9日、総務省が発表した2023年11月の家計調査によれば、2人以上の1世帯当たりの消費支出は実質で前年比2.9%減となり、これで9カ月連続で前年を下回りました。

7 2023年の「労働組合基礎調査」の結果

12月20日、厚労省は、2023年6月末日現在の「2023年労働組合基礎調査」の結果を公表しました。それによると、労働組合数は22,789組合で前年比1.1%の減、労働組合員数は993万8千人で前年比0.5%の減、推定組織率は16.3%で前年比0.2%の減で過去最低となりました。女性労働者の推定組織率は12.4%、パート労働者の推定組織率は8.4%。企業規模別の推定組織率は、1000人以上の企業で39.8%、100人以上1000人未満の企業で10.2%、100人未満の企業で0.8%となっています。主要団体別では、連合が692.9万人（前年比▲2.3万人）、全労連が68.3万人（同▲1.9万人）、全労協が8.5万人（同▲7千人）となっており、いっそうの組織化に向けた努力が求められています。



8 京都市長選挙

1月21日告示、2月4日投開票で京都市長選挙が行われています。「つなぐ京都2024」から弁護士の福山和人さん（無所属新人）、元民主党参議院議員の松井孝治さん（自民・公明・立民・国民推薦）、元京都市議の村山祥栄さん、元自民党府議の二之湯真士さんらが立候補しました。



9 イスラエルのガザ攻撃

昨年10月7日のハマスの無差別攻撃から始まったイスラエルのガザに対する大規模な攻撃は今も続いています。パレスチナの民間人の犠牲者は2万4千人を超え、その内7割が女性と子どもだとされています（1月19日公表された国連女性機関「UNウィメン」の報告書より）。1月11日、オランダのハーグにある国連司法裁判所（ICJ）は、南アフリカの「イスラエルはジェノサイド（集団殺害）条約に違反している」とする提訴を受け、審理を開始しました。即時停戦と話し合いによる解決がいっそう強く求められています。



10 オックスファム報告書

1月15日、国際NGOオックスファムは、世界の首脳や経営トップが結集する世界経済フォーラムの年次総会（ダ

ボス会議)の開会に合わせて、報告書を発表しました；新型コロナ、物価高騰、気候変動の影響を受けた2020年以降、世界で約50億人もの人が貧しくなった一方で、最も裕福な5人(=米・テスラCEOのイーロン・マスク、仏・ルイヴィトンCEOのベルナール・アルノー、米・アマゾン創業者のジェフ・ベゾス、米・オラクルの共同創業者ラリー・エリソン、著名投資家のウォーレン・バフェット)は資産を倍増させ(8690億ドル、約124兆円)、資産10億ドル以上のビリオネアの資産は34%増の3.3兆ドルに到達したと告発し、余剰利益や富への課税強化でより公正な世界を実現するよう求めました。

◎ 2024年は信頼を再構築し、希望を取り戻す年にしなければならない。非難し合い、銃を向け合っても、何ももたらされない。人類は団結するとき最も強くなれる。ともに立ち上がり、国家や社会の間の関係に有害な差別と憎悪に反対しよう！(国連のグテレス事務総長の2024年を迎えるにあたってのビデオメッセージより)

【編集子の独り言①】垂れ幕「憲法を暮らしの中に生かそう」の意味をあらためて考えてみました

編集子は、今から51年前の1973年に、京都大学法学部に合格・入学して、京都での生活を始めました。当時の京都府知事は蜷川虎三さんで、京都府庁にも京都市役所にも、「憲法を暮らしの中に生かそう」という大きな垂れ幕が掲げられていました。当時浅学だったわたしは、それを見て不遜にも「憲法でメシが食えるのか！腹がふくれるのか！」と心の中で思っていました。その後、自民党府政・市政となり、その垂れ幕は早々とおろされてしまいました。

編集子が京都総評の顧問をしている関係もあり、1月5日に行われた京都総評の2024年新春旗びらきで、乾杯の音頭を頼まれ、その前の一言ということで、「憲法を暮らしの中に生かそう」というかつて京都府庁と京都市役所に掲げられていた垂れ幕のことをつらつらとあらためて考え、そのことをしゃべりました。そしてあの垂れ幕には、京都府や京都市の京都府民・市民に対する2つの強い思いがあったのではないかと思うに至りました。一つは文字通りの京都府民・市民に対する「憲法を暮らしの中に生かそう」という呼びかけであり、もう一つは京都府・京都市の「憲法を京都府民・市民の暮らしに生かす」という強い決意・姿勢の表明ではないのかということでした。すなわち、京都府・京都市は「京都府民・市民の一人ひとりを“個人として尊重”し、その『生命、自由及び幸福追求に対する権利』を最大限尊重して行政を行っていく、その憲法で保障された「健康で文化的な生活を営む権利」を全力で実現するという決意と姿勢の表明が、あの垂れ幕に示されていたのではないのでしょうか！

みなさんは、「憲法を暮らしの中に生かそう」と呼びかけられて、どう思うでしょうか？—主権者である国民としての自覚が沸き起こり、憲法が国民に保障している自由及び権利(それは主権者としての国民の不断の努力によって保持しなければならないもの)を実現していこうと思ひ、行動に立ち上がっていくのではないのでしょうか！わたしは、憲法を“たたかひの旗じるし”に高く掲げて、労働組合運動にとりくんできました。「憲法9条を守れ！」と、日本国憲法より日米安保条約・地位協定を上置く勢力とたたかい続けてきました。憲法25条の生存権の保障と国の社会保障責任、27条の勤労権の保障と労働条件法定主義(=労働条件は、労働者が人たるに値する生活を営むための必要を充たすものでなければならない)、28条の労働基本権の無条件全面保障を、いつも意識し、それらを根本において活動を進めてきました。

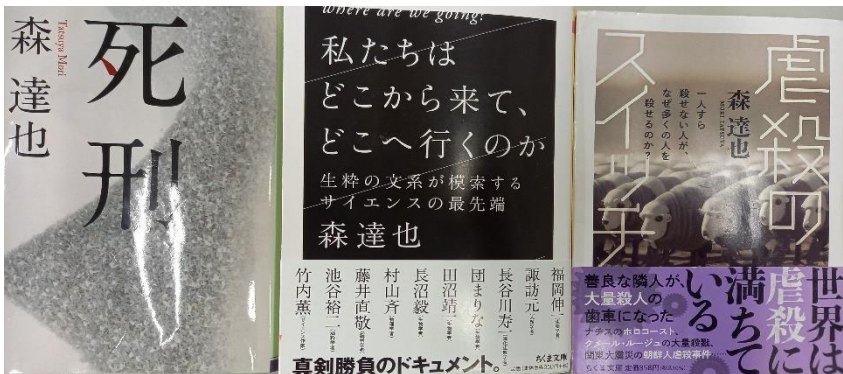
再び、京都府庁と京都市役所に「憲法を暮らしの中に生かそう」という垂れ幕を掲げたいものです。そして、国会議事堂と霞が関の官庁街にも…。



京都職対連第41回定期総会&結成40周年記念レセプション

- 開催日時・場所：2024年2月24日(土)、ラポール京都(京都労働者総合会館)2階ホール
- ・ 第41回総会：午後1時30分～3時30分
- ・ 結成40周年記念レセプション：午後4時～6時(参加費：団体5千円、個人3千円)

II 今月のお勧めの本；森達也さんの文庫を3冊



昨年2023年は、関東大震災（1923年9月1日発生）から100年ということで、関東大震災関連（特に朝鮮人虐殺）の本をたくさん読みました。無知と偏見が差別となり、それが虐殺の引きがねとなったことをあらためて痛感させられました。その過程で映画「福田村事件」を観て、監督の森達也さんのことを知り、森達也さんの著作を読みあさるよう

になり、色々なことを考えさせられたのですが、今回は特に印象に残っている文庫本3冊を紹介させていただきます。これ以外に、オウム真理教事件を描いた「A-マスコミが報道しなかったオウムの素顔」（角川文庫）、相模原事件を描いた「U - 相模原に現れた世界の憂鬱な断面」（講談社現代新書）もお勧め！

- 1 「死刑」（角川文庫、2013年第1刷）；罪とは何か、罰とは何か、そして命とは？—死刑制度について、あらためて根底から考える、比類なきルポルタージュ！
- 2 「私たちはどこから来て、どこへ行くのか - 生粋の文系が模索するサイエンスの最先端」（ちくま文庫、2020年第1刷）；「なぜ人は死ぬのだろうか」「人はどこから来たのか」「進化とはどういうものか」「宇宙はこれからどうなるのか」などなど、書名の通りの本。
- 3 「虐殺のスイッチ」（ちくま文庫、2023年第1刷）；ナチスのホロコースト、関東大震災における朝鮮人虐殺などなど、普通の善良な市民が、同じように普通の人をいとも簡単に殺すのか、しかも大量に…。虐殺のメカニズムについての考察。



メンタルサポート京都・公開講座2024 「だれもが働きやすい職場づくり～発達障害の特性から考える～」 にご参加ください！

- 開催日時：2024年2月17日（土）午後1時30分～
- 開催場所：ラポール京都（京都労働者総合会館、四条御前西入ル北側スグ）4階・第12会議室
- 主な内容：
 - ・ 山下恵子さん（京都産業保健総合支援センター・産業保健相談員）の講演
 - ・ 職場からの報告
- 主催：メンタルサポート京都（特定非営利活動法人・EAP京都心の健康支援センター）
- 参加費：無料



* 参加の申し込みは、FAX (075 - 754-8673) か、E-mail (info@mental-s.org) で、2月10日(土)までに、「氏名・事業所 or 団体名・参加方法(会場 or Zoom)・電話番号・メールアドレス」をお知らせください!